

重度障害者訪問調査事業の

調査結果を公表します

市では、緊急雇用就業機会創出事業により、重度障害者の訪問調査を実施しましたので、その調査結果を公表します。
《問合せ》社会福祉課障害福祉係 ☎ 24-7033

目的

障害者手帳を所持しているも、障害福祉サービスの利用がないため、普段、話を聞く機会の少ない重度障害者の日常生活などを調査し、今後の相談支援やサービス支援などの基礎資料を整備するためです。

期間

平成21年5月25日(月)～10月31日(土)

対象

次のすべてに該当する方
(平成21年4月1日現在)

- ① 身体障害者手帳1・2級、療育手帳A判定、精神障害者保健福祉手帳1級のいずれかを所持する方
- ② 65歳未満の方
- ③ ホームヘルプ、生活介護、短期入所、移動支援、日中一時支援などの障害福祉



内容

- ④ サービスの利用がない方
- 施設に入所していない方
- 生活状況、健康状態、不安・悩み・希望など

状況・結果

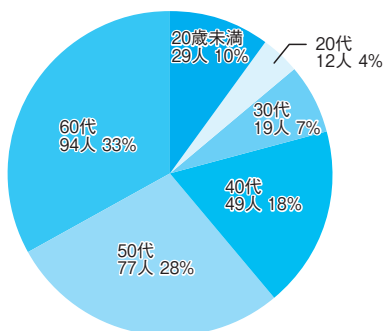
◆調査状況

4月時点での調査対象者数は394人でしたが、このうち280人(7割)に、訪問または電話による聞き取り調査を実施しました。あとの3割の方は、連絡がつかないなどにより未調査の方が35人、入院などを理由として調査対象から除外した方が79人でした。

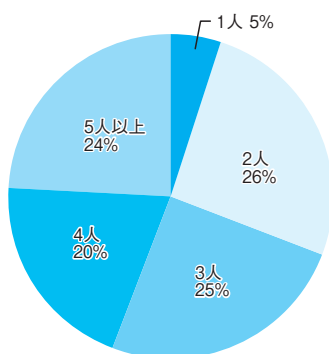
◆結果分析

訪問調査で聞き取った内容を整理・分類し(表1)、それぞれのグループと豊岡市障害者福祉計画(第1期)の「施策の体系」との関連性を検証しました(表2)。

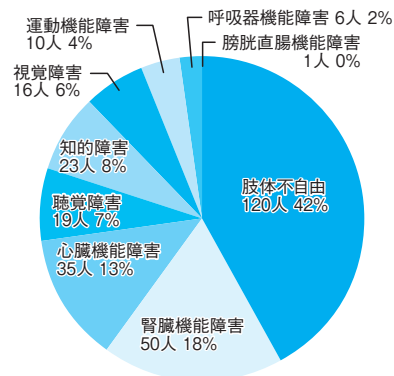
《年代別》



《家族構成》



《障害者別内訳》



■表1

※〔 〕はコメント数(コメントの多い順)

グループ		主な意見
A	悩み・不安なし[56]	特に悩みなし。福祉について、特に希望することはない。日常生活で困ることはない。
B	福祉サービスに関する不満・希望[55]	福祉サービスを充実してほしい。ヘルパーの育成と充実。タクシー券を増やしてほしい。有料道路通行料の割引をしてほしい。
C	経済的な問題・医療費[49]	年金収入のみで経済的に苦しい。ローン返済が大変。医療費が上がったので困る。年金額を上げてほしい。
D	仕事に関する希望・悩み・不安[43]	自分に適した仕事に就きたい。年金収入が少ないので就労したい。仕事がないのが悩み。障害者でも働ける職場を探してほしい。
E	将来的な不安[40]	家族が高齢になったときが心配。子どもの卒業後の進路が心配。

グループ		主な意見
F	体的な不安・悩み[39]	身体を自由に動かすことができないのがつらい。将来手術をすることが不安。
G	病院・医師への不満・要望[36]	医師の減少に不安。医師の対応が悪い。心療内科の開設。
H	感謝[35]	家族の存在がありがたい。現状の福祉サービスには満足している。ケアマネジャーには精神的に支えられている。
I	行政への不満・要望[35]	担当者が入れ代わり立ち代わりで時間がかかる。職員が制度を熟知し、分かりやすい制度説明をしてほしい。書類や手続きが分かりにくい。
J	移動・外出[35]	バスの運行路線を増やしてほしい。バスの本数が少ない。透析通院のための送迎バスを考えてほしい。
K	透析[33]	透析のできる病院を増やしてほしい。豊岡病院で透析をしてほしい。夜間透析、週末透析をしてほしい。
L	人との交流[32]	障害者同士で話せる場、情報交換できる場がほしい。気軽に集える交流会や催し物をしてほしい。
M	施設(福祉)に関する要望[28]	近くに適切な施設が増えてほしい。重度障害者を受け入れる施設を作してほしい。
N	施設(公共)に関する不満・要望[26]	障害者専用駐車場に健常者が止めると困る。障害者用トイレは増えたがまだ不安である。駅のホームにエレベーターがほしい。
O	訪問調査[19]	訪問調査を今後も行うべき。話を聞いてもらえるだけで安心。今回の訪問調査は有意義である。
P	災害[19]	災害時要援護者支援対策事業の登録はあるが不安。災害時、透析患者はどうすればよいかという情報を伝えてほしい。
Q	情報提供・相談窓口[15]	広報以外にも情報提供をしてほしい。障害者が活動できる場を教えてほしい。誰でも気軽に相談できる窓口を作してほしい。
R	リハビリ[13]	リハビリ施設を作してほしい。回数を増やしてほしい。
S	介護に関する不安・悩み[13]	介護者がいなくなったときが心配。
T	障害者への理解[10]	体調の変化を周囲に理解してもらいにくい。
U	家族に対する気兼ねなど[8]	家族とはいえ、健康面、金銭面のことを言えずにいる。
V	その他	早く受診すればという悔いは大きい。

■表2

基本理念	基本目標	施策	グループ
コウノトリとともに、すべての人が笑顔で暮らせるまちづくり	「自己実現できる」まちづくり	教育の充実	
		雇用・就労の促進	C、D
		社会参加・生きがいづくり	J、L
	「人と人が支え合う」まちづくり	広報・啓発	T
		人材育成・確保	B
		ネットワークづくりの推進	L
	「いつでもどこでも相談できる」まちづくり	相談体制・情報提供の充実	B、E、I、O、Q
		障害の早期発見・早期対応	
	「地域で生活できる」まちづくり	保健・医療の充実	F、G、K、R
		精神保健施策の推進	
		生活支援の充実	B、E、M、S、U
		介助家族の支援	B、L、Q、S、U
	「安全で安心して暮らせる」まちづくり	福祉のまちづくり	N
		福祉と環境の調和したまちづくり	
		防犯・防災対策の推進	P

◆表1について

障害福祉サービスを利用していない人を対象に調査したこともあり、福祉サービスに関する意見が多数ありました。続いて、経済的な不安が多く、これに関連して、仕事に関する希望や悩みも多く聞かれました。

反面、特に悩みもない、周囲の人の支えに感謝しているという人もあり、今回実施した訪問調査についても、「話を聞いてもらえただけでも良かった」と感謝されるなど、事業として良い評価もいただきました。

◆表2について

調査結果と関連性の高い施策としては、「相談体制・情報提供の充実」、「生活支援の充実」、「介助家族の支援」が挙げられます。障害者自立支援法がスタートしてから3年が経過しましたが、相談支援や情報提供が求められていると分析できます。

市では、今後さらなる情報提供や相談体制のあり方について検討し、すべての人が笑顔で暮らせるまちづくりを進めます。